2015 年 1 月 1 日発行

点訳通信

84 号

日本ライトハウス情報文化センター
点字製作係
発行責任者　竹下　亘
〒550-0002　大阪市西区江戸堀 1-13-2-8F
TEL 06-6441-1028（点字製作係直通）

先日、かわいいお友達からお手紙をいただきました。昨春から始めたばかりの点字を、一文字一文字いっしょうけんめい書いてくれた様子が伝わってくるお手紙。もちろん手書きです。周りの大人に「ちゃんと書きなさ～い」と言われながら書いてくれたのかな？　途中に点線で囲んでくれたところは自分で思いついたレイアウトなのかな？ それとも点訳図書を真似たのかな？　そんなことを思い浮かべながら読むのは、とても楽しく胸がぽっと温かくなりました。

新しい年も、読者に心のこもった点字図書を届けていきましょう。

（点字製作係　奥野真里（おくのまり））

(C) WANPUG

【 開室・休館のお知らせ 】

１月　６日（火）ボランティア活動開始
１月１０日（土）８階点字製作係は開室
２月１１日（水）休館　(建国記念の日)
３月１９日（木）休館　(ボランティア交流会)
３月２１日（土）休館　(春分の日)

２校正から見えてくる点訳の難しさ・面白さ

点字製作係　小原二三夫（おばらふみお）

当館で製作している点訳書は、点訳者自身による校正、対面での読み合せ校正（１校正）、 そして点訳経験豊富な方にお願いしている２校正と、３回の校正（およびその都度のデータ修正）を経て仕上げられます。このうち、最終の作業である２校正に基づくデータ修正は職員が担当しています。

今回は、２校正で実際にどのような校正がよく出ているのか紹介してみます。日々の点訳や校正にも参考になることもあるかと思います。

１．本全体のレイアウトなどについて、もう一度データを確認してみてください。

18 行設定では、点字は表・裏の両面に印刷されます。目次、本文、奥付は必ず表ページ（奇数ページ）から始めるようにしてください。まれにですが、目次が表紙の裏から始まっていたり本文や奥付が偶数ページから始まっていることがあります。

なお、表紙・目次や奥付に間違いが多いこともあります。本文だけでなく、表紙・目次や奥付も１校正の段階でしっかり校正してほしいです。

２．誤字や脱字、読み間違いをなくすことが基本

点訳書の校正は、誤字や脱字、読み方ばかりでなく、点字独自の分かち書きやレイアウトの仕方、記号類やルビの扱い、さらに点訳者の注まで、注意しなければならないことが多岐にわたります。点訳書の校正は、墨字の本の校正以上にたいへんな作業です。

とくにマス空けやレイアウトなどが乱れているままで２校正に回ってしまうと、２校正者の注意もどうしてもそちらのほうに向きがちになるようで、たまに単純な誤字や脱字が見逃されていることがあります。

(C)WANPUG

まず、２校正でも見逃されてしまった間違いを２､３挙げてみます。

例１「大いに点数を稼いだ。」

「稼いだ」が「カセイタ」のままでした。

例２「そうこうしているうちに」

「している」が「シテイル」と続いたままでした。

例３ ちょっと専門的かも知れませんが、馬券のことについていろいろ書いてある文章中で、「馬連」「馬単」が、「バレン」「バタン」のままになっていました。これは「ウマレン」「ウマタン」です。

次に、２校正で挙げられている多くの校正例の中から、ごく一部を紹介します。

●読み間違い

例４「母は嫁ぎ先によく行く。」

点訳では「嫁ぎ先」が「カセギサキ」になっていました。「カセギサキ」でもそれなりに意味が通るので、読み合せ校正の時に見逃されてしまったと思われます。また、「嫁ぐ」と「稼ぐ」は送り仮名が同じで字もちょっと似ているので、気がつきにくかったのかも知れません。

例５「背中と臀部に膨れた部分が出来たので、総合病院の形成外科で切除してもらった。」

「形成外科」が点訳では「セイケイ□ゲカ」になっていました。これも「セイケイ□ゲカ」でも意味が通りますので、スルーしてしまったものと思われます。

●適切な読み方

前後の文脈で意味を考えて、読み方を判断しなければならないことがあります。

例６「どうも広い部屋より、六畳一間のような部屋の方が居心地が良く感じました。」

「六畳一間が点訳では「６ジョー□１ケン」になっていました。このような解釈も有り得なくはありませんが、ふつうは「６ジョー□ヒトマ」とするほうが適切です。

例７「ふいに寒気を感じはじめると、もう寒いということしか考えられなくなった。

「寒気」が点訳では「カンキ」、校正で「サムケ」。

例８「二人の仲は、人の口の端に上っている。」

「口の端」が、点訳では「クチノ□ハシ」、校正で「クチノハ」。

例９「女はつと顔をあげて氷も燃えるような眼ざしをして、男を見つめた。やがて口の端に不自然な冷笑を浮かべたかと思うと『あなたは馬鹿ね！』と言った。」

「口の端」が、点訳では「クチノハ」、校正で「クチノ□ハシ」。

例 10「こうした地力を地道に育てていたから、佐賀藩は「薩長土肥」の一角を占める実力を持ち、…」

「地力」が点訳では「チリョク」、校正で「ジリキ」。

●点訳者注

前後を読んでも、点字ではなかなか意味を類推できないことがあります。

例 11「左手で頬杖をついて、右手でマウスをがたがた動かしている様子は、有閑であると全身で述べており、いらぬ反感を煽る。」

文中の「有閑」に点訳者注があったほうが良いのではという２校正者の指摘がありました。「有閑」という言葉は今はほとんど使われなくなりましたし、読み手はまず「勇敢」を連想するでしょう。［ヒマナ□コト］という点訳者注を付けました。

●ひらがなの連続に注意

ひらがなが連続していると、意味を取り違えてマス空けを間違えてしまうことがあります。

例 12「やがて、数十人の若い女の列は、ほうけた枯れ草の丘のほうへと向っていた。列のうしろのほうでは、笑いやおしゃべりで、二列の列がいくところも、はみだしている。」

この中の「いくところも」が点訳では「イク□トコロモ」になっていました。点訳者は「行く所も」と解したかもしれません。これは「幾所も」のことで「何箇所も」の意味なので、「イクトコロモ」と一続きに書かなくてはなりません。

＊ほうける（蓬ける）：草や髪の毛などが、ほつれ乱れる。

例 13 「しかし五百木良三は、これまでとてもけっして無名の人物ではなかった。」

この中の「これまでとても」が、点訳では「コレマデ□トテモ」になっていました。「とても」をふつうに副詞の「とても」と思ったのかも知れません。この場合の「とても」は、助詞の「とて」と「も」の連語で、「…も」「…でも」とだいたい同じ意味です。ですから、「コレマデトテモ」と一続きに書かなくてはなりません。

　このような「とても」の使い方はちょっと古めかしい言い方で、例えば「それは私とても認めざるを得ないでしょう」とか「これが他人の妻であったら彼とても美しいと感ずるであろう」などのように用いられます。

＊五百木良三　（いおき　りょうぞう）：明治-昭和時代前期のジャーナリスト、俳人。

●マス空け

例 14「そういえば、去年もいい加減にしないといけない年だった気がするが、いい加減に過ごしてしまった。」

点訳では「いい加減」がともに「イイカゲン」になっていましたが、最初のほうは「イイ□カゲン」がいいですね。

3．うっかりミスをなくしましょう。

うっかりミスと思われる誤字や脱字、読み間違いなども２校正でかなり出てきます。

例 15「いったいどこの何人が、無残に死んでいった罪なき子供たちの悲しみ苦しみはだれかによってあがなわれなければならない、などという壮大な観念に達し得たでしょう。」

文中の「あがなわれなければ」が「アガナワナケレバ」になっていました。

ほかにも、ついうっかりして間違ってしまったというような例にしばしば出会います。少しだけ例を挙げてみます。

「行わない」　→　点訳「オコワナナイ」
「はばかられる」　→　点訳「ハバカレル」
「ばらばら」　→　点訳「パラパラ」
「国旗を揚げる」　→　点訳「コッキヲ□カカゲル」　校正「アゲル」
「責任を免れる」　→　点訳「セキニンヲ□ノガレル」　校正「マヌガレル」
「声を荒らげる」　→　点訳「コエヲ□アラゲル」　校正「アララゲル」

マス空けについても、うっかりミスと思われる例があります。

つい続けてしまっている例としては、「色濃い」「誇り高い」「よりよい」「このところ」「せんならん」などがありました。

また、３拍以上の助詞（「くらい」「ばかり」など）や、助動詞（「らしい」「みたいだ」「ごとし」など）の前でついマス空けしてしまっていることもあります。助詞や助動詞は、長さに関係なくとにかく続けます。

そのほかに、ごくたまにですが、「考えさせる」「感じさせる」「題する」などがマス空けになっていることもあります。

記号類の使い方についても、しばしば乱れていることがあります。

●伏せ字

伏せ字の後に助詞・助動詞が続く時は、マス空けして書きます。

例：　⠠⠠□マデ、⠠⠠□ノ、⠠⠠□ジャ□ナイノ

また、伏せ字が、一続きに書くべき一語中にあるときは、伏せ字の前後につなぎ符36の点を付けます。

例：　⠠⠠⠤通り、福⠤⠠⠤駅

●外国語引用符

外国語引用符閉じの直後に助詞・助動詞が来たときは、1マス空けます。また、カッコ類の開きが来たときも、1マス空けます。

例：　⠨⠄Justice⠨□ニワ、⠨⠄FUN⠨□⠨⠨タノシサ・オモシロサ⠨⠨

〇全視情協が点字表記検索システムを開発中

全国視覚障害者情報提供施設協会（全視情協）が点訳に役立つ「点字表記検索システム（点訳なび）」を開発しています。このシステムは、だれでも自由にインターネット上で活用できる検索辞書で、分かち書きや、点字の仮名遣い、記号類の書き方など多岐にわたって調べることができます。

語例は主に全視情協が発行している『点訳のてびき』を初めとする資料から引用しています。手軽に検索できるシステムですので、運用可能になりましたらお知らせします。ただし、語例の中には当館で採用していない表記も含まれていますので、あくまでも参考資料としてご覧ください。